

行岡病院と私

行岡病院副院長
整形外科主任部長
正富 隆

巻

頭言には似つかわしくない私事で恐縮ですが、私の整形外科医としてのキャリアは「行岡病院」と共にあると言っても過言ではありません。その縁は私が卒業した後の阪大病院研修中に、当院の処置外来の応援を頼まれた時に遡ります。25年も前の事です。外来診察の経験もない研修医が応援などとは烏滸がましいのですが、どんな患者さんが来るのか冷や冷やしながらも看護師さんの言われるまま創処置を覚えしました。その時、腰痛の初診患者さんが来ました。腰痛をどのように診察するかは心得ていても、レントゲンを依頼する時、はたと困りました。依頼用紙にどのように書けばよいかわからなかったのです。恐らくべいべいの研修医が心配で、覗きにきてくれた先輩医師がそれを察知したのか「腰椎4

正富 隆

手の外科センター長(行岡骨関節センター部門)
日本整形外科学会専門医
日本リハビリテーション医学会専門医
日本整形外科学会リウマチ医
日本リウマチ学会専門医
日本手の外科学会専門医



人工肩関節置換術を行う正富副院長

Rが6Rで書くねん」と耳打ちしてくれました(ちなみに「R」はドイツ語の「Rotating」方向)を意味することを知ったのはさらにその何年か後です)。こんな新米医師の私が今日まで、フランスに留学した一年、香川・和歌山に赴任した各一年以外は常に手の外科外来や手術のため当院にお世話になってきました。それは私を育ててくれたという愛着だけではなく、非常勤であってもここで自分の患者を診療・治療する時の安心感のためだと思います。私の専門である「手の外科」は(もちろんそれ以外にも同様ですが「特に」というも思っています)、手術のみならず術前・術後のリハビリテーションがその結果を大きく左右します。その方針・方法について非常勤の私を多くの質問責めにし、私の要求に応じてくれようとするリハスタッフにいつも感謝していました。レントゲンの撮影法について私に議論を挑んでくれる放射線技師さんもありました。その中で侵襲少なく有効な撮影法について自分なりに考えるきっかけになりました。私の指示や処方について適確に助言をくれた看護師さんや薬剤師さんにもどれだけ助けられたかわかりません。その都度、私の勉強のきっかけとなり、私の知識も蓄積されたばかりでなく大きなミスを未然に防げたと思っています。これまで私には大学病院をはじめいくつ

かの大きな病院勤務の経験がありますが、それに比べても私的な市中病院の中にあつて当院のスタッフレベルは決して見劣りしませんし、むしろ自負と自覚を持つべきだと思います。当院におけるスタッフの質と、お互いに忌憚なく議論しながら最良の医療を提供しようとする雰囲気こそ当院の財産です。これから向上させるためには、各人のレベルアップにも繋がると信じています。多忙な日常業務に埋没しがちな中で、自身の切磋琢磨や後進の教育に力を注ぐのは大変なことです。日々少しでも良いですから自身の時間と労力をそこに割いてください。私も微力ながら恩返しをしたいと思っています。そして「行岡病院」で多くを学んだと思える医師やスタッフをたくさん輩出する病院であつて欲しいと思います。



整形外科スタッフ一同

読売新聞社「病院の実力2010年」関節リウマチ部門にランキングされました。

大阪府下で、新規患者数、人工関節手術患者数が共にトップに!!

<大阪>

医療機関名	新規患者数	生物製剤使用患者数	滑膜切除術	人工関節手術患者数				日本リウマチ学会の指導医・専門医数	日本整形外科学会認定医数
				患者合計	ひざ関節	股関節	その他		
行岡病院	462	186	31	99	27	12	60	11	4
国・大阪南医療センター	431	270	2	37	12	7	18	6	1
北野病院	370	72	2	9	6	3	0	5	0
大阪大学病院	338	236	2	30	12	3	15	12	3
大阪市立大学病院	182	251	3	34	17	7	10	10	5
近畿大学病院	168	181	12	34	16	11	7	17	9

行岡病院

〒530-0021
大阪市北区浮田2-2-3
TEL06-6371-9921(代)
http://www.yukioka.or.jp/

診療科目

内科、消化器内科、消火器外科、リウマチ科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科(行岡秀和)、精神科、心療内科



<アクセス>
地下鉄・阪急「天神橋筋六丁目」駅から徒歩2分の総合病院

2009年4月に 新館手術棟がオープン

「協同」を掲げて地域医療を実践

最新の医療設備を整えた新館は、手術における感染予防、災害時の備えを想定した手術室のほか、現役復帰を目指すスポーツ専門のリハビリスペースも設置し、万全を期して生まれ変わりました。今後も地域医療に貢献し、愛される病院作りを目指します。



新館整形外科外来



新館手術棟オープン

最新システムの 手術室3室を設置



最新システムの手術室

2009年4月に、本館西側に新館手術棟がオープンしました。人工関節や脊椎手術、脳神経外科手術に対応する手術室を3室設置し、今までより高度で難易度の高い手術等にもスピーディーで柔軟に対応できる様になりました。手術室は、万全のコンディションで手術を行うことができるよう、細菌などを抑制するための特殊なフィルターや、換気装置も備えられています。手術における感染予防も期待でき、昨年の手術件数は2162件と大幅に増加しました。

また手術創の小さな内視鏡・関

専門の医療スタッフが 万全の態勢で 患者を支える

かねてより期待されていた新館3階のスポーツ部門のリハビリテーションスペースは、患者の運動機能回復に大きく貢献しています。単にリハビリで痛みをとるだけでなく、スポーツ復帰に備え、トレーニングシステムも完備。スタッフは、理学療法士(P.T.)22人、作業療法士(O.T.)8人、言語聴覚士(S.T.)2人を配置しており、いつでもきめ細やかな対応が可能です。スポーツ障害や外傷に対する診療、手術だけでなく、リハビリや障害予防のための指導も行っており、高齢化社会がすすむ中、地域のみならず喜ばれています。



難易度の高い手術にも柔軟に対応

スポーツ選手の競技復帰をサポート

リハビリテーション部
スポーツリハビリテーション科

山野 仁志



投球ネットを使用した投球練習



トレーニングマシンによる筋力トレーニング

スポーツリハビリテーション科は2009年4月に新館3階に開設され、主にスポーツ選手の競技復帰を目的としたリハビリテーションを実施しています。主な疾患は膝前十字靭帯損傷、投球障害、肩および肘であり、スポーツ種目は野球、バスケットボール、アメリカンフットボール、ラグビー、サッカー、バレーボール、柔道などが多いです。膝前十字靭帯損傷はタックル、ジャンプ、ステップ動作などで受傷することが多く、術後早期から競技復帰までの約1年間にわたりリハビリを実施します。投球障害は小学生から大学生、社会人の野球選手が多く、某在阪球団のプロ野球選手もリハビリにいられています。投球障害は投げ方の悪さ、肩や

肘のストレッチング不足などが原因となり、肩や肘に痛みが出現し投球ができなくなることが多い障害です。そのため、肩・肘・体幹・下半身のストレッチングや筋力トレーニングの方法、投球動作の指導などを実施します。当科は4名の専従スタッフを中心に、平日の午前と午後、うち月・水・金は夜診を行っています。また専従スタッフ以外にも若手スタッフの人材育成にも努めています。今後は広く他の病院や学校からの研修生も受け入れ、スポーツ選手のリハビリテーションの発展に貢献していきたいと考えています。

第一回日本線維筋痛症学会を回想して



薬局
井上都

井上都

2009年10月11日(日)、12日(祝月)の秋晴れの爽やかな気候の中、大阪商工会議所において記念すべき、「第二回日本線維筋痛症学会」が開催されました。行岡病院は、運営事務局として準備に携わり、特別講演5題・一般演題37題、スポンサードシンポジウム、市民公開講座とめまぐるしいほどの企画内容でしたが、400名を超える参加者が集まり、無事、終えることができました。

それまでは「研究会」という名称でしたが、「学会」に昇格したその記念すべき一回目の学会長が行岡正雄院長だったため、推進事務局の役割を担った私としては、かなり大きなプレッシャーを受けました。なんとか乗りきれたのは、院長先生をはじめ、多くの病院職員・学園職員の方々、医薬品メーカーMRの方々

のご協力・ご支援があり、病院全体が丸となって取り組んだおかげであつたと感謝しております。

学会二日目の懇親会では司会として、病院事務局の藤原さんが奮闘され、余興の部では人事課の植木さんがオペラ、医局秘書の福山さんがフルート演奏を披露され、行岡病院の職員の多才・多芸をアピールでき、大いに盛り上がる事ができたとおもいます。

この学会運営は、ホームページ作成、案内や抄録(しやうろく)の郵送、スライド映像担当、アナウンス担当、接待担当、受付担当など、すべて行岡職員によるものでした。皆様一人ひとりの底力とチームワークで乗り切った学会であつたと、今でも良き経験、良き思い出として私の心に刻んでおります。

行岡正雄院長が学会長として
第一回日本線維筋痛症学会を開催。



第一回日本線維筋痛症学会にて挨拶する行岡正雄学会長



パネルディスカッション風景

〈追記〉

特別講演(ランチョンセミナー)では、兵庫医科大学解剖学講座の野口光一教授、大阪大学医学系研究科疼痛医学寄附講座の柴田政彦教授をはじめ、その分野の第一線で活躍する先生方が講演しました。

またシンポジウムでは、「痛みを科学するPain Visionの応用」というテーマでディスカッション。熱気にあふれる討論会となりました。

年間手術実績数推移

診療科目	各科の主な手術	2006年	2007年	2008年	2009年	2009年4月 ~2010年3月
眼科	"網膜剥離、糖尿病網膜症等に対する硝子体手術 日帰り白内障手術"	460	584	639	668	679
外科	"胃がん、大腸がんなどの消化器手術 胆石症に対する腹腔鏡視下手術 ソケイヘルニア根治術(腹腔鏡下ソケイヘルニア手術)"	62	81	179	168	178
整形外科 (スポーツ整形外科・ リウマチ科を含む)	"骨折の手術や肘、膝、股関節の人工関節置換術 関節リウマチに対する関節形成術・滑膜切除術 手の外科・・・手や肘の疾患や外傷 関節鏡を用いた肩、肘、膝、足首の手術 関節形成術、半月板手術や膝靱帯再建術など"	884	1004	1038	1120	1125
脳神経外科 (脊椎・脊髄センターを含む)	"くも膜下出血に対する動脈瘤手術 脳内出血や脳腫瘍摘出術 腰椎ヘルニアや脊柱管狭窄症に対する脊椎手術"	134	118	115	134	119
形成外科	"皮膚腫瘍摘出、瘢痕形成など"	68	57	33	50	56
その他 (歯科、婦人科)	"顎骨骨折、顎骨腫瘍、のう胞摘出手術、 埋伏歯抜歯手術など 婦人科疾患の小手術"	5	17	27	22	26
合 計		1613	1861	2031	2162	2183

「包括的診療報酬制度（DPC）」の導入で病院運営が機能的に DPC 請求対象病院となった価値とミッション Ⅱ 医療の質の向上と効率化をめざして Ⅱ



診療情報管理室
田中 成幸

を受けていることと同じ価値があるといえます。

既に国策として厚生労働省を中心に、医療機関の実態や情報の公開を積極的に進めており、DPC 請求病院の入院件数及び診療実績は、インターネットで公開されています。いまや、患者様自身が各病院の医療レベルを比較・選択する時代に入っています。このような大きな環境変化の中、行岡病院が地域に根ざす病院として発展するためには、当院の使命・役割に立ち返り、DPC

DPC 制度は、急性期入院医療の標準化・効率化を目的に、平成15年より国立病院と特定機能病院の一般病床を対象として始まった「包括的診療報酬制度」です。この制度は、平成19年度より一般急性期病院にも適用が拡大され、平成22年7月時点で、DPC 導入一般病院数は、1,391病院となり、全国一般病院の約16%に達しています。当院は、平成21年4月より厚生労働省の認可を得て、DPC 請求対象病院となっています。

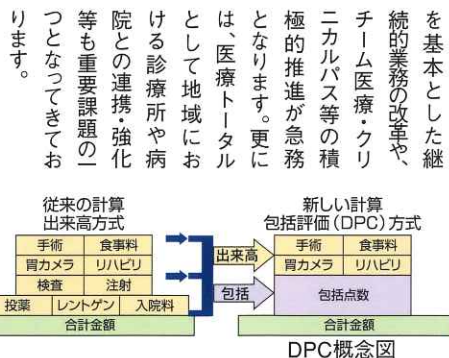
DPC 請求とは、従来の出来高算定・出来高請求とは異なり、入院中の病名に定められた標準的な医療行為に基づく点数算定方式（通称：包括点数体系）のことで、標準以上に入院の長期化、標準外治療等をした場合、包括点数がマイナスに作用します。

当院におけるDPC 導入の大きな効果としては、「入院日数の短縮化と回転率の向上（一般病床平均入院日数／導入前15.4日→導入後13.1日）」、「使用薬剤の見直し等によるコスト削減・適正化の促進」等で、徐々に効果が上がりつつあります。

DPC 請求対象病院であることは、開かれた病院の証でもあり、病院機能評価やISOのような第三者評価



クリニカルパスによる連携・調整



平成22年度の診療報酬改定について

Ⅱ 急性期医療からリハビリまで手掛ける当院にとって追い風となる Ⅱ



医事課
寺前 為之

診療報酬とは、我々が患者様に提供する手術や検査、リハビリ、薬剤の点数（価格）を指します。平成22年4月に診療報酬の改定が実施され、国全体でわずかながら10年ぶりのプラス改定（+0.19%）でした。

今年度の国が示した重点項目は、救急・産科・小児・外科などの医療再建と、病院勤務医の負担軽減への対応・充実が、求められる分野の評価で、わかりやすい医療の推進をめざした内容でした。

当院は国の方針に基づき体制の改善・検討を行い新たな施設基準を取得しました（別項参照）。

今後の新たな施設基準取得目標として、「看護基準7対1」、「休日リハビリテーション提供加算」、「栄養サポートチーム」等があり、人材の確保や体制の強化等、取り組むべき課題が目の前にあります。更に、平成24年度の診療報酬改定は、6年に一度の診療報酬改定の同時改定が予定されています。医事課職員は一丸となって皆様の働きを無駄にすることのないよう入院・外来共に診療報酬請求業務を行っています。

【行岡病院 新施設基準】

① 急性期医療へ対応できる救命救急センター、二次救急医療機関の評価

◇手厚い人員による入院医療の提供

- ・救急医療管理加算（点数改定のため再申請）600点より200点アップし800点へ改定
- ・ハイケアユニット入院医療管理料（4500点 / 日・21日を限度として算定）と重症患者様の手厚い看護体制の確立。
- ・急性期看護補助体制加算：50対1（50対1）：120点 / 日・14日を限度として算定可能
- ・回復期リハビリテーション入院料評価のアップ 1690点から1720点へ改定

② 充実が求められる手術料の引き上げ、小児に対する手術評価の引き上げ

- ◇整形外科、外科、脳神経外科・脊椎、眼科についての難易度が高く、人員を要する一部手術の評価による手術料の引き上げ

③ 医師の負担軽減のための評価、他職種からなるチーム医療の評価、地域連携医療体制の評価

◇医師の事務作業を行う人員（ドクターズクラーク）の配置

- ・医師事務作業補助体制加算：50対1

◇地域連携慢性期病棟退院調整加算

- ・入院後病状の安定及び安定後を見越して退院に関する支援への評価
- ・当院の入院患者様の退院調整を行うため地域医療連絡室へ社会福祉士及びMSWの配置
- ・障害者病棟での調整：300点 / 回
- ・その他・療養病棟等：100点 / 回

◇医療安全対策加算1：85点 / 入院初日

- ・医療安全管理者を中心として当院のヒヤリ・ハット事例を分析し、安全で安心できる環境と再発をくいとめるべく業務内容の確認を行っています。

④ 医療の透明性にかかる評価

- ◇日々の会計業務に診療行為のわかる明細書付の領収書を発行し、患者様にお渡ししています。



HCUにて医療安全の確認

2010年5月に医療安全管理室が設置され、安全で質の高い医療を提供することを目的として患者様のニーズに対応しています。

医療安全管理室では、日々医療現場で起こっている、ヒヤリ・ハットした事例報告から情報を収集し、その後現場に向き報告内容をていねい

「ヒヤリ・ハット」を未然に防ぐ
「医療安全管理室」を設置！
 患者様に安心してもらえる
 医療環境づくりを行っています

「医療安全管理室紹介」

医療安全管理者

紙谷 信子

に確認し分析・対策を検討します。

重大事故に繋がる事例、再発の可能性の高い事例はタイムリーにカンファレンスを持ち対策立案、それに対する評価や反省を含めて事故防止に対応しています。

各部署より報告された事例に関する具体的活動は「安全確保のための活動委員会」で検討し、医療安全に関する全般的事項を「安全管理委員会」で職種横断的に対応していきます。

事故の再発を防止するため大切なポイントは①院内全体で情報を共有する②事例や事故報告を有効に活用し、現場の医療安全意識を高めるような働きかけをする③医療安全に関する職員への周知徹底を図るために研修を企画、実施などです。患者さんが安心して医療が受けられるような環境を提供していくよう努めていきます。

行岡病院 2010年度 教育・研修記録



9月24日開催の研修風景



実施日	開催部門	研修会名	講師・報告書	講演内容	参加人数
4月1～3日	看護部	新人オリエンテーション	看護部、コメディカル	看護師としての意識と組織人としての心構えをもつ	24名
4月5日	事務局人事部 教育研修委員会	接遇研修会	第一生命講師	新人教育研修会～接遇について～	24名
6月9日	医 局 医薬品使用安全業務委員会	医局モーニングカンファレンス (安全研修)	井上薬局長	新しい処方箋記載方法について	18名
6月24日	安全管理委員会 教育研修委員会	安全研修会	椎木リハビリ科長、徳田 技師長、紙谷リスクマネ ージャー、井上薬局長	「リハビリ部における医療安全」「医療安全管理について」「医療機器安全情報」「医薬品安全情報の収集と情報の共有化」	66名
7月16日	事務局	院内学術講演会	(外部講師) 桜橋渡辺病院 安部和夫先生・正井崇史先生	「(エボバの証人) 輸血拒否の心臓手術」 「重症心不全に対する外科治療の最前線」	56名
7月23日	医 局 安全管理委員会	医局モーニングカンファレンス (安全研修)	徳田検査技師長	「医療機器安全情報」	17名
9月24日	事務局	院外学術講演会	(外部講師) 兵庫医科大学 リウマチ・ 膠原病科 佐野統先生	「関節リウマチの病態、診断、治療－寛解から治療へ」	73名
10月14日	感染管理委員会 教育研修委員会	感染研修会	沼田看護主任、 井上薬局長	「手洗いのポイントと重要性について～院内アンケートより」「消毒薬について」	73名
10月27日	医 局 感染対策委員会	医局モーニングカンファレンス (感染研修)	沼田看護主任、 井上薬局長	「手洗いのポイントと重要性について～院内アンケートより」「消毒薬について」	18名
10月29日	事務局	院内学術講演会	(外部講師) 桜橋渡辺病院 岩倉 克臣先生	「虚血性心疾患」	64名
11月11日	安全管理委員会 教育研修委員会	安全研修会	石橋レントゲン技師長、 道野看護師、 紙谷リスクマネージャー	「放射線科インシデント傾向と対策」 「デュロテップMT/パッチに関するインシデント」 「医療安全管理者の業務内容」	55名

行岡病院では2011年度早々の看護配置基準7:1取得を最重要課題とし、現在取り組んでおります。



看護部においても「看護師が長く勤められる職場環境を！」をモットーに看護師確保に向けての活動を続けています。
現場はともアットホームな雰囲気、地域に密着した看護を提供しようと一同がんばっております。
今後、いかに地域の健康づくりに看護部として貢献出来るかを考え、私達看護部と一緒に歩んでいただける方をお待ちしております。
毎月病院見学会を開催し、当院の魅力を伝えたいと考えています。
お気軽にお越しください！

看護師のための

「病院見学会」を毎月開催

行岡病院で、
いっしょに
働きませんか！

行岡病院見学会

＜参加対象＞
看護師、看護師を目指している
一般の方及び学生

毎月1回開催

■見学会内容
当院の概要説明、院内ツアー、教育プログラムなど
看護部説明、質疑応答など
※日時などの詳細は、下記のWebサイトをご参照下さい。
【行岡病院ホームページ】
<http://www.yukioka.or.jp/recruit/kengakukai.html>



入職式

院内行事

(平成22年)

■1月 4日 仕事始め、互礼会

■2月18日 創立記念日、
永年勤続表彰
勤続35年：3名
30年：2名
25年：1名
15年：4名
10年：4名
5年：16名
表彰者合計：30名

■3月18日 慰霊祭

■4月 1日 入職式
看護師：15名
看護助手：4名
医技職：8名
事務職：4名
医師：3名
入職者合計：34名

■7月25日 天神祭・北区子供祭



オリエンテーション

News Topix

ジャズピアニストの 石井彰さん来院！



ジャズピアニストとして、ソロはもちろん、ジャズトランペッターの日野皓正さんとの共演等でご活躍の石井彰さんが、6月15日に来院。新館1階ホールで、華麗なジャズを披露してくれました。石井さんのお母様が、以前、当院に入院されていたご縁で、今回の演奏会が実現。昼休みを利用した、限られた時間でのライブでしたが、病院ホールがジャズホールと化し、患者様や地域の方々など、約100名にのぼる観客が集まり、大いに元気を頂きました。

大盛況！中尾ミエさんの トーク&ライブ

7月21日夕方、新棟1階ホールで、中尾ミエさんのトーク&ライブを開催しました。ミュージカル「ヘルパーズ」の大坂公演中だった中尾ミエさん。ユーモアあふれるお話と熱い歌声で、会場を魅了し、終演後も一人ひとりに声をかけ、大いに盛り上がりしました。



Editors note

地域に根ざした“やさしい医療”を目指す病院の更なる発展と、関係方々の更なる成長への思いも込め、今回、紙面を一新させて頂きました。反応が楽しみです。皆様方の声も聞かせて頂き、広報活動の戦略的機関紙として進化・成長ができればと考えております。今回ご協力頂いた皆様方に感謝・御礼申し上げます。

(編集委員K.T)